

いぶつ
遺物 (出土した昔の道具)

土居内遺跡では土器は土師器と須恵器が、ほかに石製品や木製品が見つっています。
土器は奈良・平安時代のものが多く、このほかに古墳時代の土師器が少数出土しています。木製品と石製品は時期を特定できるものは今のところありませんが、土器と同じ時代と考えられます。

土師器

土師器は古墳時代から作られた土器で、野焼きで作られます。土居内遺跡では甕や杯、高杯が見つっています。



高杯 (古墳時代) 杯 (奈良時代)

須恵器

須恵器も古墳時代以降に作られた土器ですが、土師器と異なり窯で焼いてあります。土居内遺跡では杯や横瓶、甕、壺が見つっています。



杯 (奈良・平安時代) 壺 (奈良・平安時代)

石製品

土居内遺跡では磨石が見つっています。中央のくぼみを使った跡です。何を磨るために使ったのかは不明です。



磨石 (奈良・平安時代) 磨石 (奈良・平安時代)

木製品

木製品は木簡や箸のほか、先を尖らせた杭や板材が多数出土しました。用途不明の製品や、自然の流木も多数見つっています。



箸 (奈良・平安時代) 木簡 (奈良・平安時代)

おわりに

今後は出土品や記録類の整理を行い、成果を発掘調査報告書として刊行するほか、遺物は文化財センターで保管し、展示や学術研究などで活用していきます。
最後になりますが、今回の発掘調査にあたり、亀田郷土地改良区、新潟市東部地域土木事務所、江南区役所、そして地域の皆様のご理解・ご協力をいただき、大変ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

新潟市文化財センターでは、新潟市内の発掘調査で出土した遺物を展示しています。
開館時間・アクセス・イベント情報などをご覧になる場合は右のQRコードからホームページにアクセスできます。

令和5年度 土居内遺跡現地説明会資料

令和5(2023)年9月30日
新潟市文化財センター

遺跡の概要

土居内遺跡は江南区鵜の子3丁目に所在する遺跡です。
市道整備事業に伴い、令和2年に遺跡の有無を確認する試掘調査で土坑や土器が見つかり、新発見された遺跡です。令和3年に行った追加の調査でも土器が多く出土したため、工事の前に本発掘調査することとなりました。

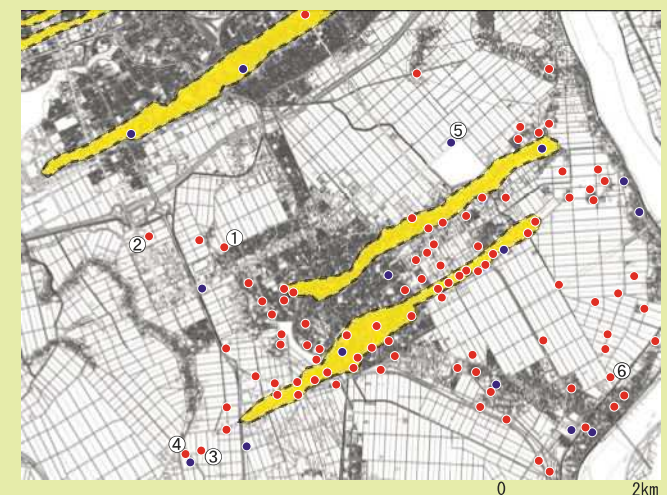
今回の本発掘調査は、遺跡範囲内の市道予定地 1220 m²を対象に行い、これまでに溝や柱などが確認されています。奈良時代の須恵器や土師器が多数出土したほか、古墳時代と平安時代の土器も少数ですが出土しています。

調査では遺跡西側に奈良・平安時代の川跡が確認されたため、土居内遺跡は川沿いの自然堤防上に営まれた遺跡と考えられます。遺跡の南側には亀田砂丘があり、多くの遺跡が発見されています。また、土居内遺跡の北西約1.5kmには平安時代の集落とされる駒首瀧遺跡が位置しています。今後はこれら周辺の遺跡との比較を行い、土居内遺跡の特徴や性格を明らかにしていきます。



令和2年度試掘調査で出土した奈良・平安時代の土器

周辺の遺跡



土居内遺跡の所在する旧亀田町周辺の遺跡分布図 (S = 100,000)

- <凡例>
赤：奈良・平安時代の遺跡 (奈良・平安時代以外の時代も含む)
青：奈良・平安時代を含まない遺跡 (黄色の範囲は砂丘列の推定範囲を示す)
- 主な遺跡
①土居内遺跡 (古墳・奈良・平安)
②駒首瀧遺跡 (平安)
③道正遺跡 (縄文・弥生・古墳・平安)
④岡崎遺跡 (縄文・弥生・古墳・平安)
⑤東園遺跡 (縄文・弥生・古墳)
⑥皆我墓所遺跡 (古墳・奈良・平安・中世・近世)

土居内遺跡周辺には奈良・平安時代の遺跡が多く分布しています。

遺構 (昔の建物などの痕跡)

土居内遺跡では掘立柱建物、溝状遺構、柱穴、大形木柱列などが確認されています。掘立柱建物は調査地南東で見つかり、6基の柱穴がありました。調査区外に延びる可能性もあり、本来はもっと大きな建物であるかもしれません。

溝状遺構は遺跡東側の標高の高い場所で南北方向に4条確認されました。途切れているものの、本来はつながっていた可能性があります。

柱穴の一部は溝状遺構と平行に並んで確認され、杭列と考えられます。調査地西側の傾斜面で確認された柱穴も直線状に並んでいるため、杭列であると考えられます。

大形木柱列は遺跡西側の川跡に向かって緩やかに下がる斜面上で9基確認されました。丸太を縦に3～4分割した直径約20cmの柱で構成され、2列に並んでいることから、水辺に向かって設けられた橋か棧橋の橋脚であると考えています。遺物は伴っていませんが、柱の周囲の地層から奈良時代～平安時代の遺構と考えられます。

ほかに土坑が複数見つかっています。



大形木柱列の柱 (No3 西から)



溝跡と柱穴 (SD26 南から)



性格不明遺構 (SK12 南から)

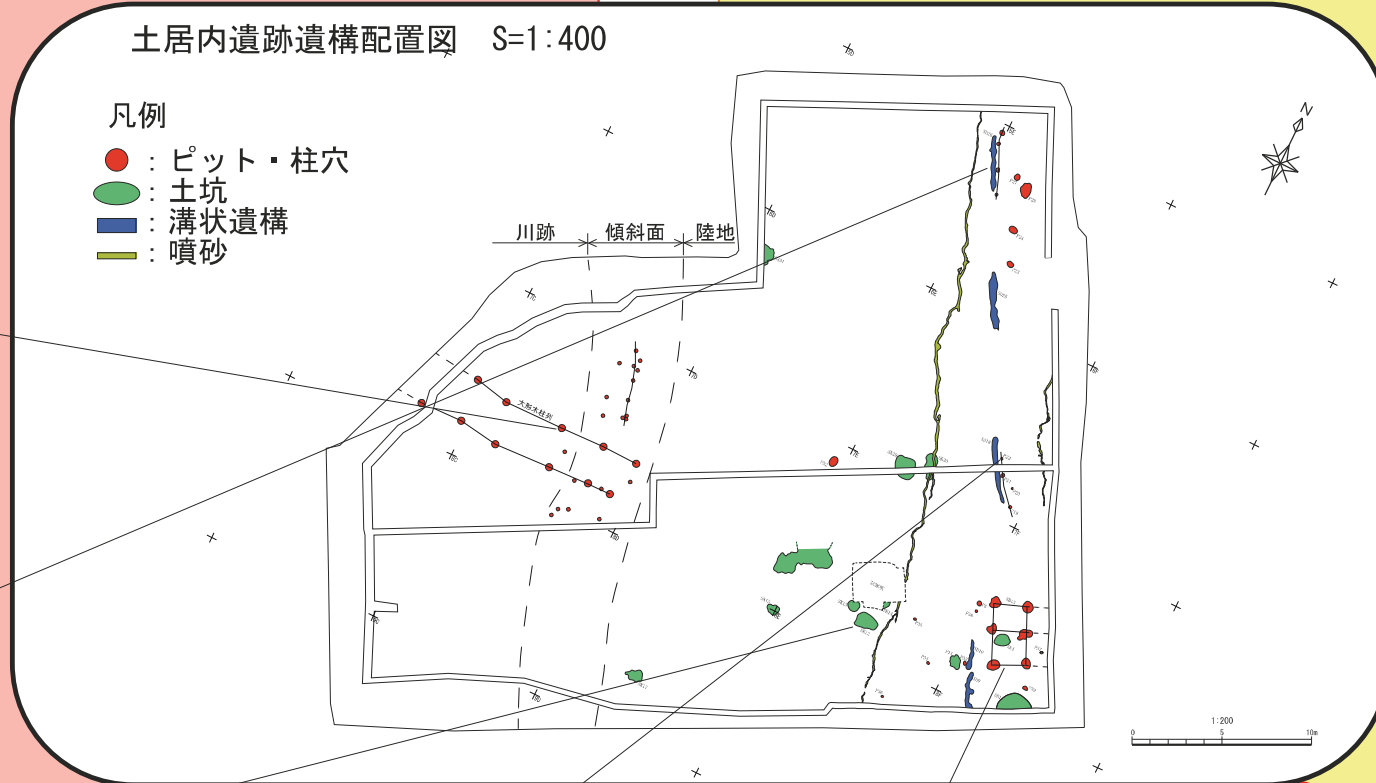
須恵器



柱穴と柱根 (P22 東から)
(下部に木の柱の一部が残っている)



掘立柱建物 (SB43 東から)
6基の柱穴が確認された



遺跡の地形

土居内遺跡で遺物の出土する層や遺構の確認できる層は、東側から西側にかけて標高が低くなっていきます。当時の地形も同様の傾斜地であったと考えられます。

西側の低地には腐食した植物の堆積した層や砂の層が確認できました。これらは、かつて川や湿地が存在していたことを示しています。こうした層からも遺物が確認できるため、当時の人が壊れて使わなくなった道具を捨てていた可能性がある一方、上流から流れてきた遺物が堆積したとも考えられます。

調査地の東側では、遺構のほかに噴砂が複数確認されています。地震で発生した液状化現象の痕跡と考えられますが、遺跡の年代との関係は現在検討中です。



遺構 (SK30) を破壊して伸びる噴砂 (点線) (少なくともこの遺構より新しい時代であるといえます)

土居内遺跡の基本層序 (土の堆積)

- I 層 水田耕作土
- II 層 黒褐色粘土
- III 層 灰白色粘土
- IV 層 未分解有機物
- V 層 褐灰色腐植質粘土 (包含層)
- VIa 層 青灰色粘土質シルト (包含層)
- VIb 層 青灰色粘土質シルト (包含層・遺構確認面)
- VIc 層 青灰色砂質シルト (遺構確認面)
- VII 層 青灰色砂・シルト互層

土器は主にV層・VI層から、木製品は主にV層から出土しています。



調査地南壁の傾斜面の層序 (右が西)